

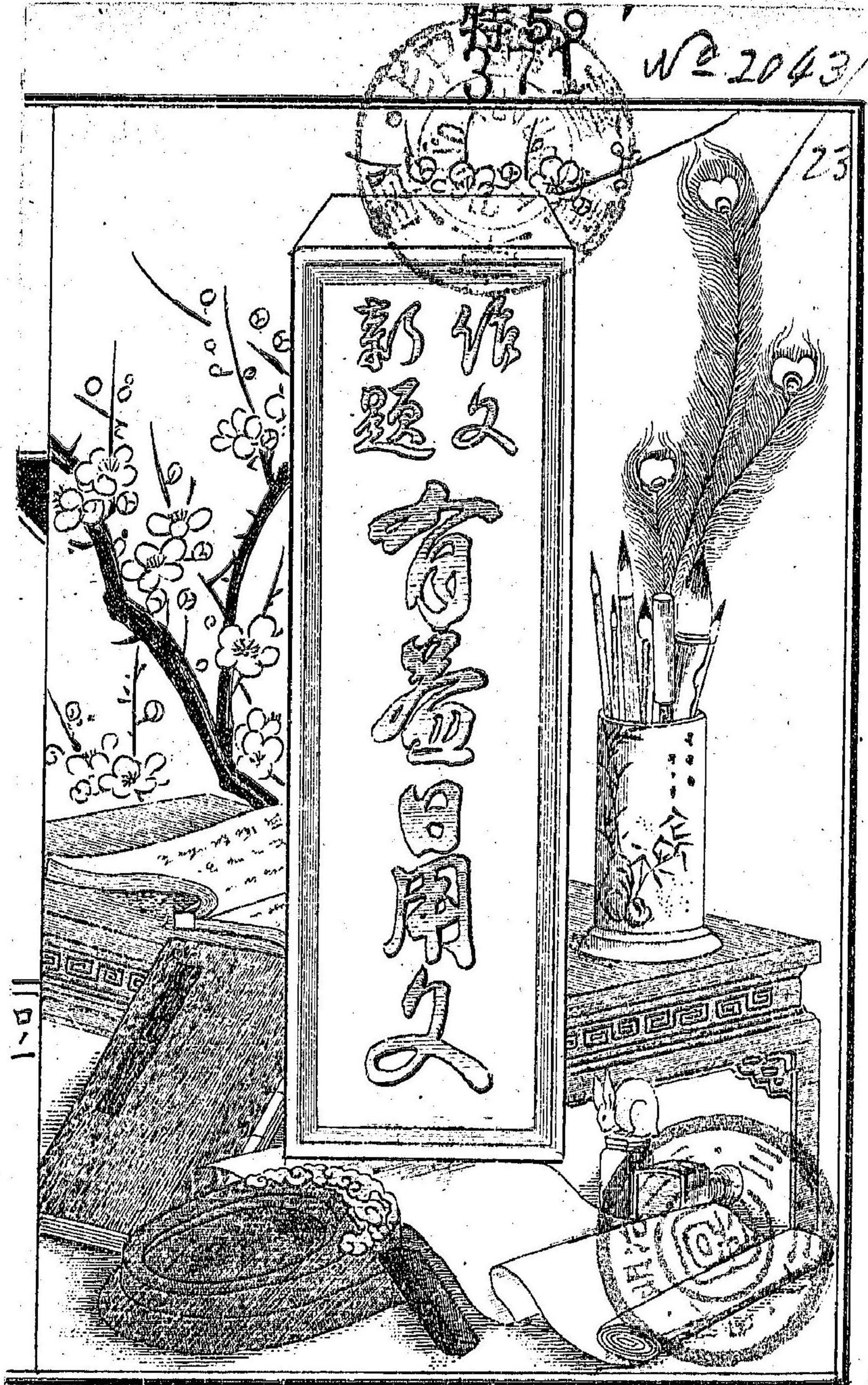
新題

作文
有益
日用
文

全

特59

371



前田耕石編輯

版權不賣

新題
作文

有
益
日
用
文
完

浪華 此村欽英堂發兌

目録

- ① 新年を賀する書
- ② 同返書
- ③ 餘寒見舞の書
- ④ 新年宴會を招かれ後の書
- ⑤ 試験の日を問合する書
- ⑥ 大雷見舞の書
- ⑦ 湯治の誘引する書
- ⑧ 梅見の人を誘ふ書
- ⑨ 暑中見舞の書
- ⑩ 留主中未訪せし人を送る書
- ⑪ 着荷を報する書
- ⑫ 同返書
- ⑬ 婚姻を賀する書
- ⑭ 出産を賀する書
- ⑮ 悔の書
- ⑯ 帰国の延引を父兄に告ぐる書

- ⑰ 天長節の人を招く書
- ⑱ 類焼見舞の書
- ⑲ 荷物送の延引を報する書
- ⑳ 菊見小誘ふ書
- ㉑ 同返書
- ㉒ 洪水見舞の書
- ㉓ 留主見舞の書
- ㉔ 近火見舞の書
- ㉕ 煙火見招く書
- ㉖ 急病を報知する書
- ㉗ 茸狩小誘ふ書
- ㉘ 同返書
- ㉙ 帰国して客を招く書
- ㉚ 花見小誘引せしれを断る書
- ㉛ 書籍を借る書
- ㉜ 人を招きて牡丹を見る書
- ㉝ 繪畫共進會一覽誘引する書
- ㉞ 書籍を注文する書

③ 納涼誘ふ書

④ 残暑見舞の書

⑤ 月見小友を招く書

⑥ 長壽を賀する書

⑦ 佛事小人を招く書

⑧ 暇を出し給へる人を報ゆる書

⑨ 雪見小友を誘ふ書

⑩ 同返書

⑪ 死去を知らせる書

⑫ 歳暮の書

⑬ 寒中見舞の書

⑭ 注文品催促の書

⑮ 蓮見小誘ふ書

⑯ 夜學を催す書

⑰ 教育會議傍聴を誘ふ書

證証ノ部

① 金子借用証

② 金貸為替証

③ 委任状

④ 建家書入借用金証

⑤ 預り金証

⑥ 宅地借用金証

⑦ 年賦返済借用証

⑧ 借家証

⑨ 公債証書賣渡証

⑩ 荷物預り証

⑪ 地所賣渡証

⑫ 建築請負証

⑬ 敷金預り証

⑭ 公債証書書入金借証

⑮ 右反証

⑯ 流質地所引渡証

⑰ 賣渡品定約証

⑱ 荷物為替証

⑲ 預り子養育証

① 証書引當之証

② 入校願

③ 種痘願

④ 送藉願

⑤ 出產加藉願

⑥ 營業鑑札御下渡願

電信文例

① 同返文

② 死去ヲ報スル文

諸願届ノ部

① 結婚入藉願

② 養子送藉願

③ 寄苗御届

④ 婢僕雇入届

⑤ 轉居御届

⑥ 為替金を取組ム文

⑦ 帰宅ヲ報スル文

諸證書之部

① 金子借用証

一 金兩平何箇也 判子

一 金兩何箇也 判子

一 金兩何箇也 判子

一 金兩何箇也 判子

一 金兩何箇也 判子

一 金兩何箇也 判子

一 金兩何箇也 判子

作文有登日用文

① 新年をか賀する書

履新之祥交目出及中

御心先心古金家古勇健

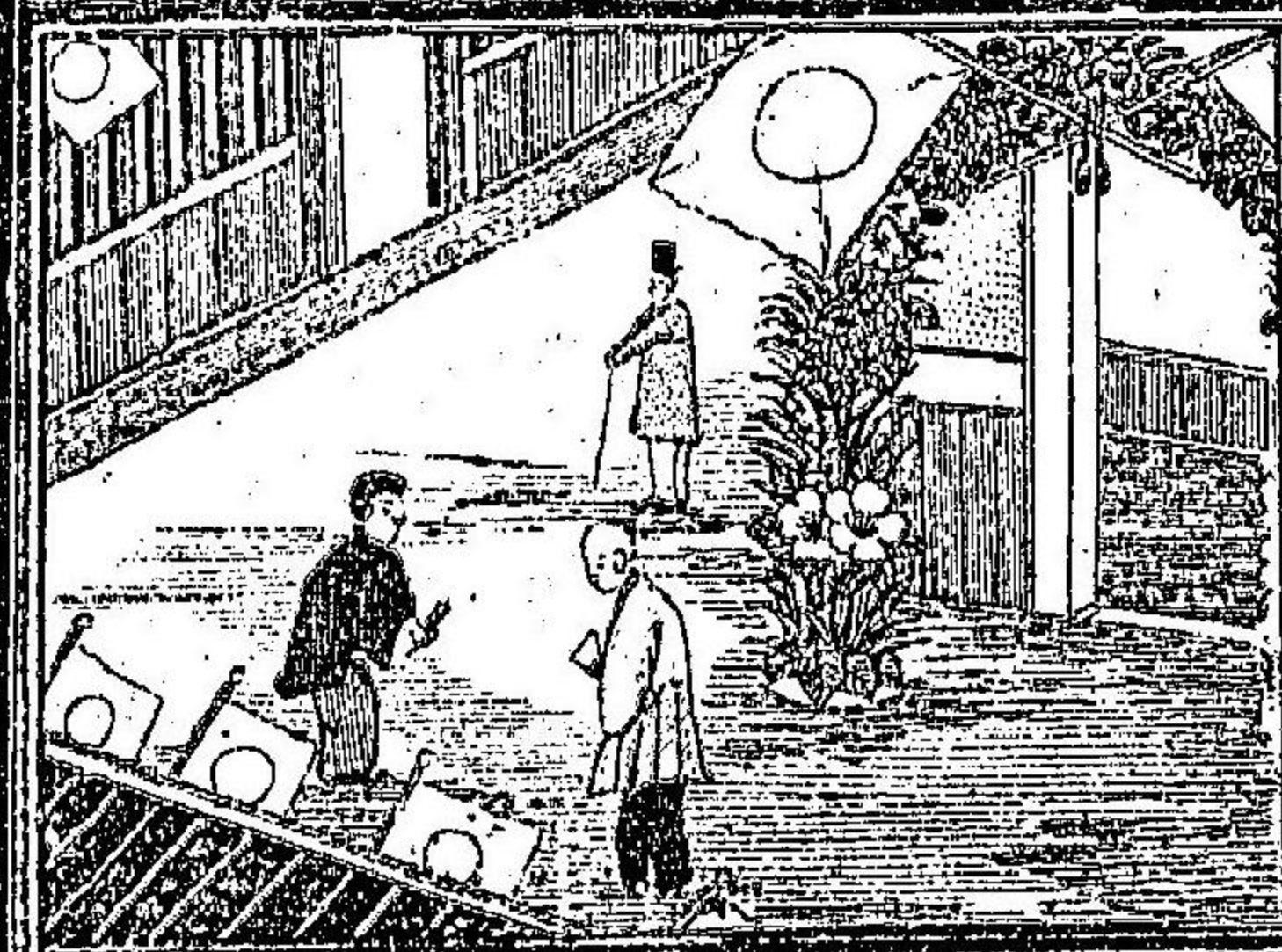
古起業成され茶加力

至るも存心次々契屋打

日證書如件

年月日

借用人 氏名印
保証人 氏名印
何誰殿



① 金貨交換

掛込人 姓名
受取人 姓名

一金何千円也

右正に請取置の間此

證券と引換前記

金額拂渡相成度

矣也

年月日

住所 氏名印

梅多矣加季致し以百

此際古致念下以百

右年始古祝儀中

上公と此此不古産の好

物象日と時以知惶謹と

② 同返書

新年と慶賀愛度お

承仕不世家老安寧中

趣意持され珍努と至

片成る拙書等と趣意

致し以る此際古休神の致

下且本年もお替らば古

三 委任状

拙者儀何々之症

罹り出頭致蕪い付

左之件限り貴殿上

代理委任事

一何々之事件

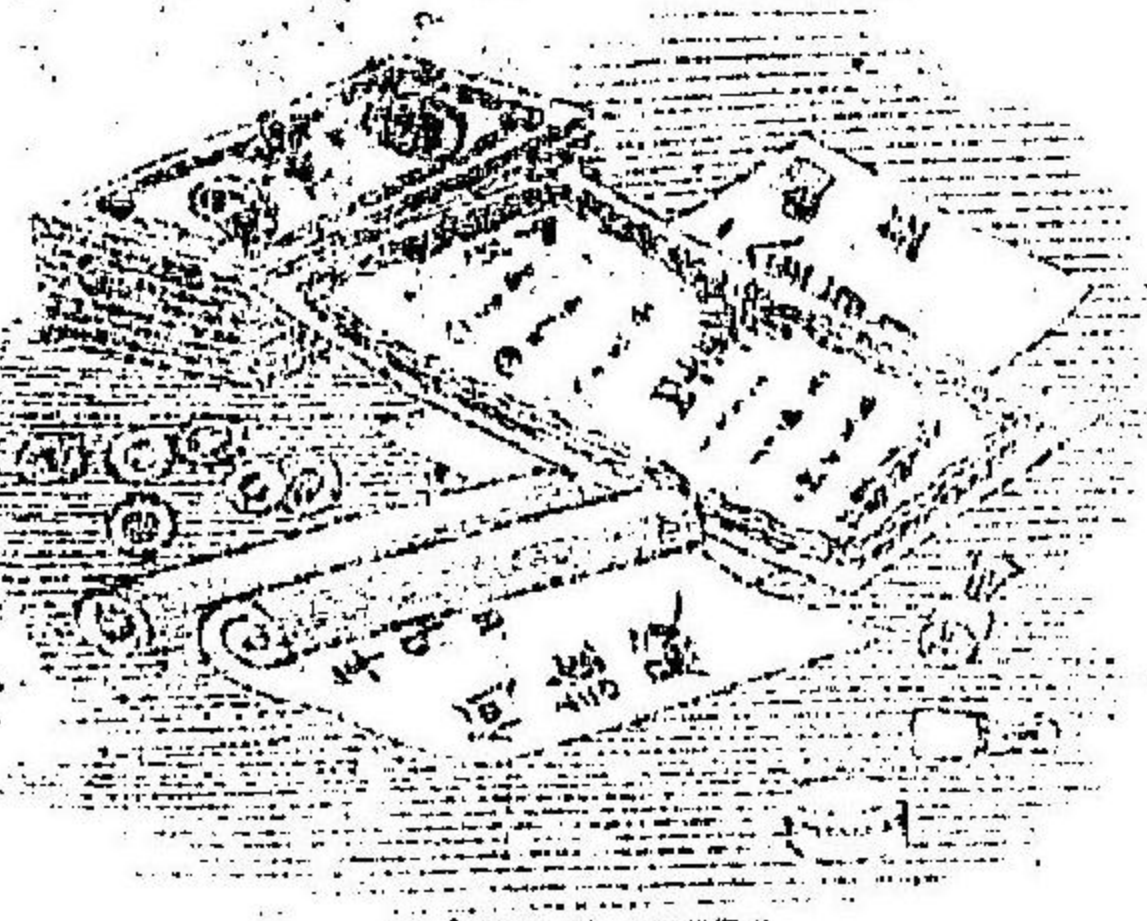
右委任候也

年月日

族籍

氏名印

何誰殿



四 建屋金と証

一金仙百両也 但利子

此抵當

何郡何村何番地建

家也ヶ所

懇情と程致上の不日系

上は祝詞とてくふととも

不日致光と旨如斯に

おと好首

三 御交々見舞と書

何郡何村何番地建

言申より知て殿交格

免へ堪る兼いへとも如何

此きなきれい何

度は堀一桶とるる香の程

まが不進呈致し何

味下いとい大考又と出度い

但問日何間與行何間概普
二勝家 何拾何坪疊建具
造作者形と各

右者今般拙者所有と

建家別紙番面と通

貴殿と書入質として

前記金額借用候處

確實也返済儀未

ル何年何月何日限元

利相揃無相違返済可

致し萬一遅延等と成

者右低當と貴殿と此

勝手と此進退可被

成り若期限内火災

流失其他何様儀

は共保証人引受け必

度辨償可致し為後

證保証人連印と證

依而如件

年月日 住所

借用人 氏名印

保証人 氏名印

氏名殿

お具

④ 新年會合の招
のれし及の謝状

昨朝、西丁寧、市馳走

日預り、酒、トラン、裁な

と、謀、面白く愉快を極

め、真、不、長、望、致し

定、る、古、迷、惑、不、能、為、在、い

と、必、強、仕、い、近、百、系、總

陳、謝、の、仕、い、甘、不、言、敢

此、程、中、を、此、如、是

⑤ 試、強、の、日、を、同、合、は、さ、る、也

信、治、精、算、子、を、系、加、る、也

但問口何問與行何問概普
二附家 何拾何半墨墨具
造作有形之俗

右者今般拙者所有之

建家別紙苗面之通

貴殿書入質として

前記之金額借用候處

確實也返済之儀未

ル何年何月何限元

利相揃無相違返済可

致し萬一遅延等之旨

者右低當と貴殿と以

勝手と進退可被

成り若期限内火災

流失其他何様之儀

共保証人引受け必

度辨償可致不為後

證保証人連印と證

依而如件

年月日

住所
借用人 氏名印

保証人 氏名印

氏名殿

お具

④ 親達之命を招
かれ及の御状

略率之丁寧と在馳走

預り雖もトランと裁な

と謙と面白く愉快を極

めい身不承ト長望致し

定る迄速惑不仕為在い

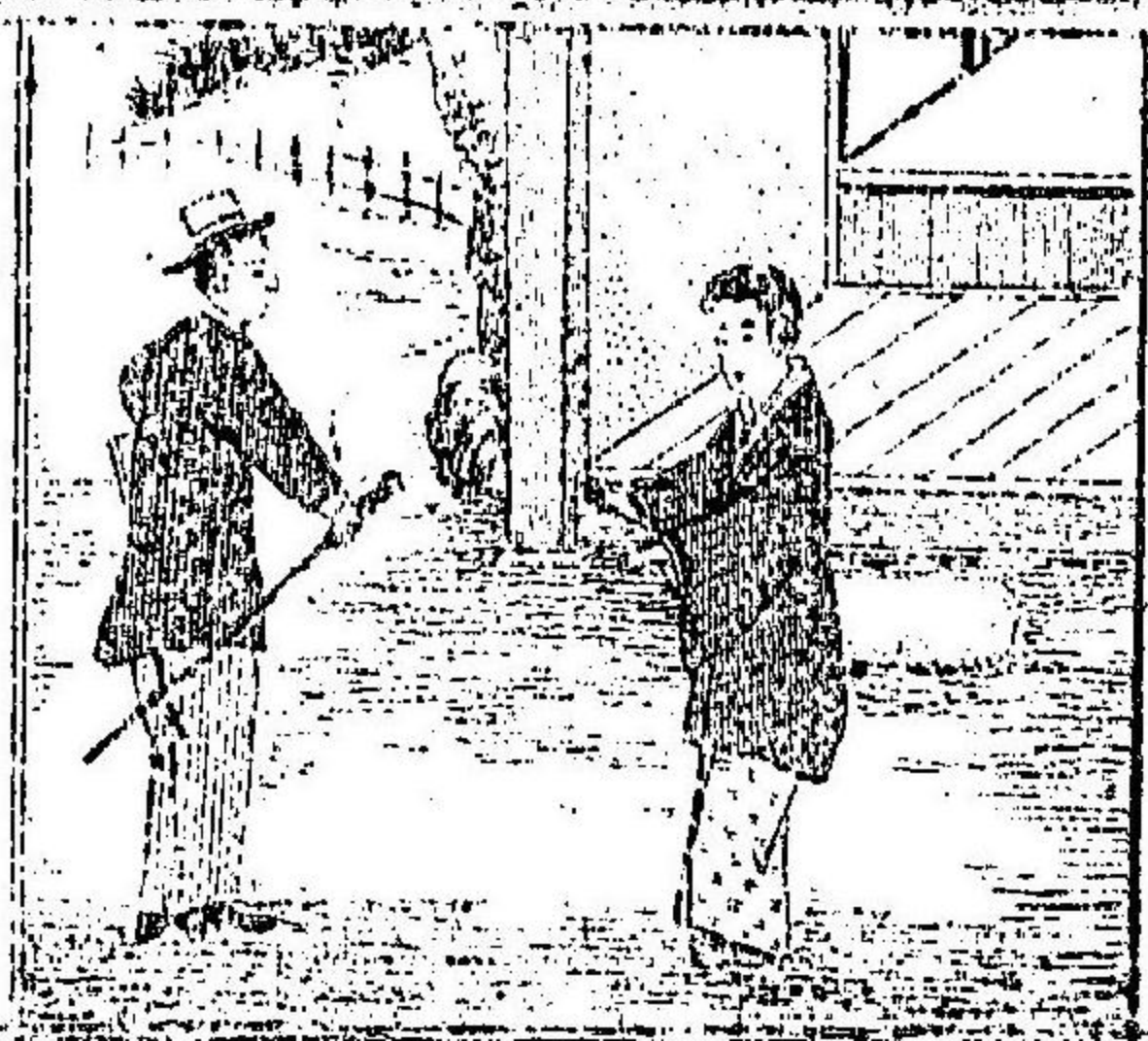
と忠告仕い由る糸趨

陳謝の仕い甘不言敢

此禮中へ御好意

⑤ 試強の日を同命仕る也

倍倍精意存も茶加賀



⑤ 預り金と證

右者貴殿貯蓄金前

賦く貴殿預り證候

成り候と存じ上ハ

成り候と存じ上ハ

通可致定約と付利

子と一て金何円

付一ヶ月何円何拾

錢ツ、毎月何日相拂

可申ハ若し臨時該

金御入用と節ハ御

申込次第此證書と

引換速に返却可致

也 其右預り証進置ハ

也

陳を小生はるる來病氣
 みて數る旨開席仕ハ付
 ると此者初の試験も凡
 兼り此の豫定ふも今
 より後習致置夫やまで
 夫是れを他校は未熟

ながら試験お受事及存
 なるは活面倒定り次第
 古報知以下度新し下
 子不忠

⑥ 大雷見舞の書

梅皇時を近年候

年月日 住所

氏名印

何某殿

⑥ 宅地借用と證

何郡何町何番地

一宅地何町何反何

畝何歩

此借料壹ヶ月金何程

右者貴殿御所持

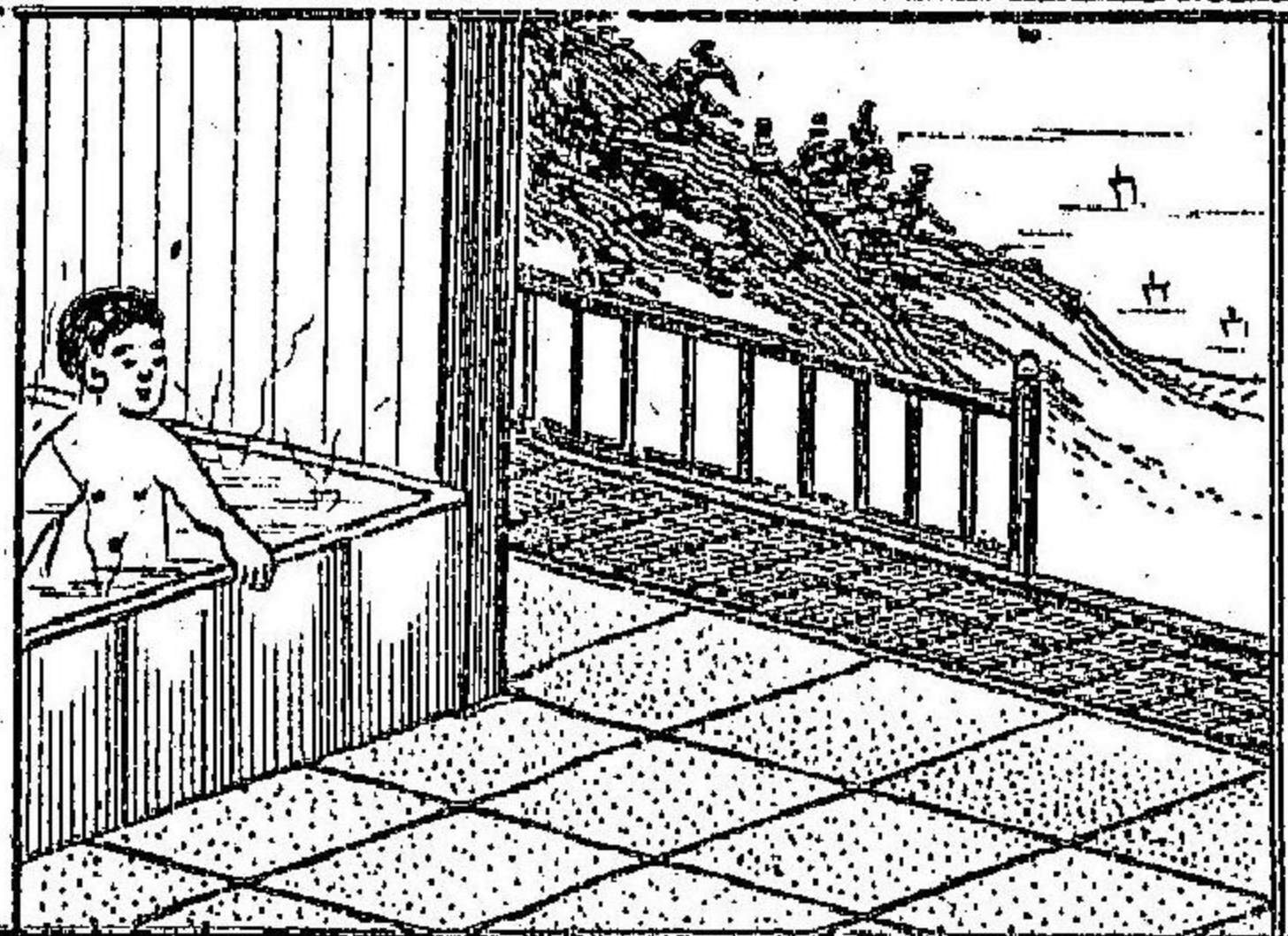
宅地前記と坪数當

何年何月ヨリ来レ何

年何月迄都合何年

間借受候處実正也

借料者毎月幾日限



なると大雷と変々々如く
りゆむ直近をへる震
と趣古舟を船とゆり
古舟名取方のゆり
なると大雷と変々々如く
りゆむ直近をへる震
と趣古舟を船とゆり
古舟名取方のゆり

早くお成

⑦ 湯治と誘ふ

爾等無事強くお成

ゆきと益は多祥な賀

ゆきと益は多祥な賀

才とふに依り某殿の

り無相遠相拂可申
以萬一遅引及ひ
矣り受人より辨
納可致以且御約定
通り建物悉皆引拂
可申し若地所御入
用之節ハ假令年限
中と雖も申聞し日
より六ヶ月内は必
立退可申矣為後日

依而如件

年月日

族藉
借用人氏名印

住所

保証人氏名印

何某殿

⑦年賦返済借用証

一金何百円也 但利子
何程

右之金員借用候處

確實也然ル上者本年

執事任せ一週有る温
館子入浴致成るは此
況のこしく此因行は下
あむ出立るも建は何
以の心胆ふいふも
思互に成るは此者人
士

二百ある否は
不備

⑧梅見よ人を後
おの

岡本の梅を満
承りぬぬる好
遊子のたのび一見

承りぬぬる好
遊子のたのび一見



本月より向ふ何年
何月迄何ヶ年賦
相定め毎月何日定

約通り割當金へ利子
を加へ屹度返済可致
以萬一延滞其ハ保
証人引受け此皆済可
致以爲後日年賦返
納証書依而如件

年月日
住所
借用人氏名印
保証人氏名印
何々誰殿

十四
度存の貴所へ去思互如
何の由れ尤當方同行人
あ三名有とてどん何も
若操あまき者存る者
古同きこといふ条りけは
立言の古様引のちの否

古報付入の事

⑨ 暑中見舞の書

一箱五上仕在本年
暑中見舞の書
其の向古渡条されり
契電孝ひふ事矣

八 借家之証

一 建家 間口何間 奥行何間 棟

右 貴殿 支配 所有 建家

借用 以 處 明白 世家



賃儀ハ毎月末迄

滞なく相納可申

若し延引致し節ハ

保証人於て引受辨

納可致以当又御布

告御布達と御趣

旨ハ勿論町規と廉

為此度相守り可申

猶右建家御入用

節者何時までも立

此の借家之証

下の人を古租居古何迄

此の古租居の打角清君の

此の古租居の打角清君の

十 借家ノ中 来付セ

此の借家之証

此の借家之証

他出古租居不中と古租居

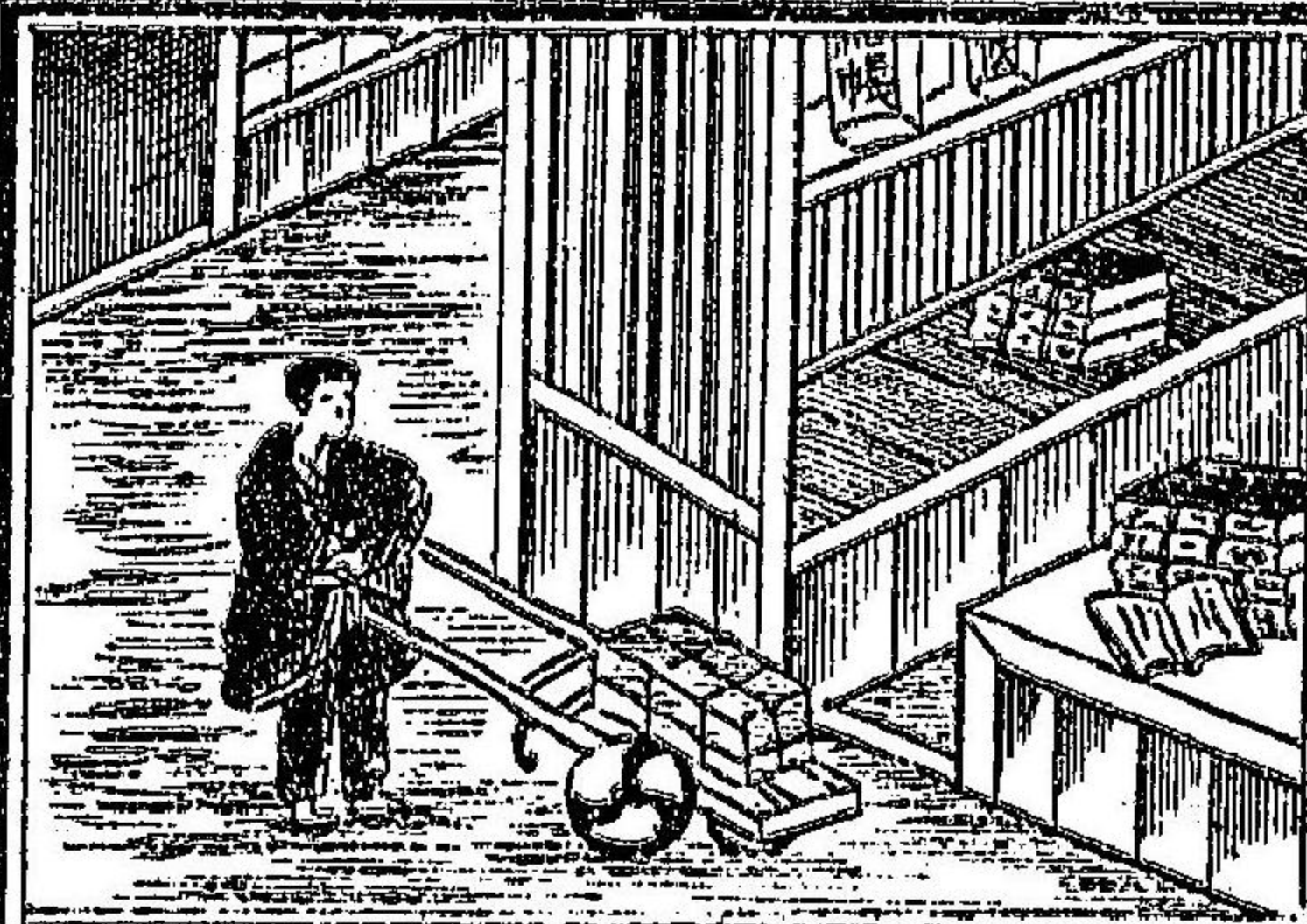
仕度不更不古租居内

中と古租居を古租居に

古租居を古租居に

古租居を古租居に

退可申且借用人
 於て何等も凶事出
 事出来し共保証人
 聊御迷惑相懸申



間敷に依り保証人
 違印進置美証書
 如件

年月日

族藉
 借用人氏名印
 同

保証人氏名印

何れ誰殿

⑨公債証券書買渡証
 一金標公債証券書

度にお

⑩着荷を報せし書

一書中よの宛を過百程

文致し宜し書籍は今

著者之趣修より精知

ありあり不致散書通

知ししに就るものも

拙定之旨書あり不致

序之旨書あり可致

下小右吉案内

類

⑪同返書

何々号何番 何故
此價格金何円也

右々公債証書是造
拙者所持致居以處
今般前頭金額を
以て貴殿へ賣渡し
價格金正と受領致
以依而賣渡証如件

年月日

住所

氏名印



氏名殿

⑩ 荷物預り証

一何品 何程

二二三
毎箱蓋に「〆」の印を
し、手数を記し、書籍
身名と題紙を通知下
され、亦「〆」の印を
掛し、何々「〆」の貴
号へ存復

⑪ 婚姻を賀する書

一、等級存し、陳き、乞
由、令置、標、並、法、成、時、表
古、儀、式、目、出、度、法、清、潔
由、筆、久、名、取、を、賀、し、松、魚
を、奉、り、致、す、不、述

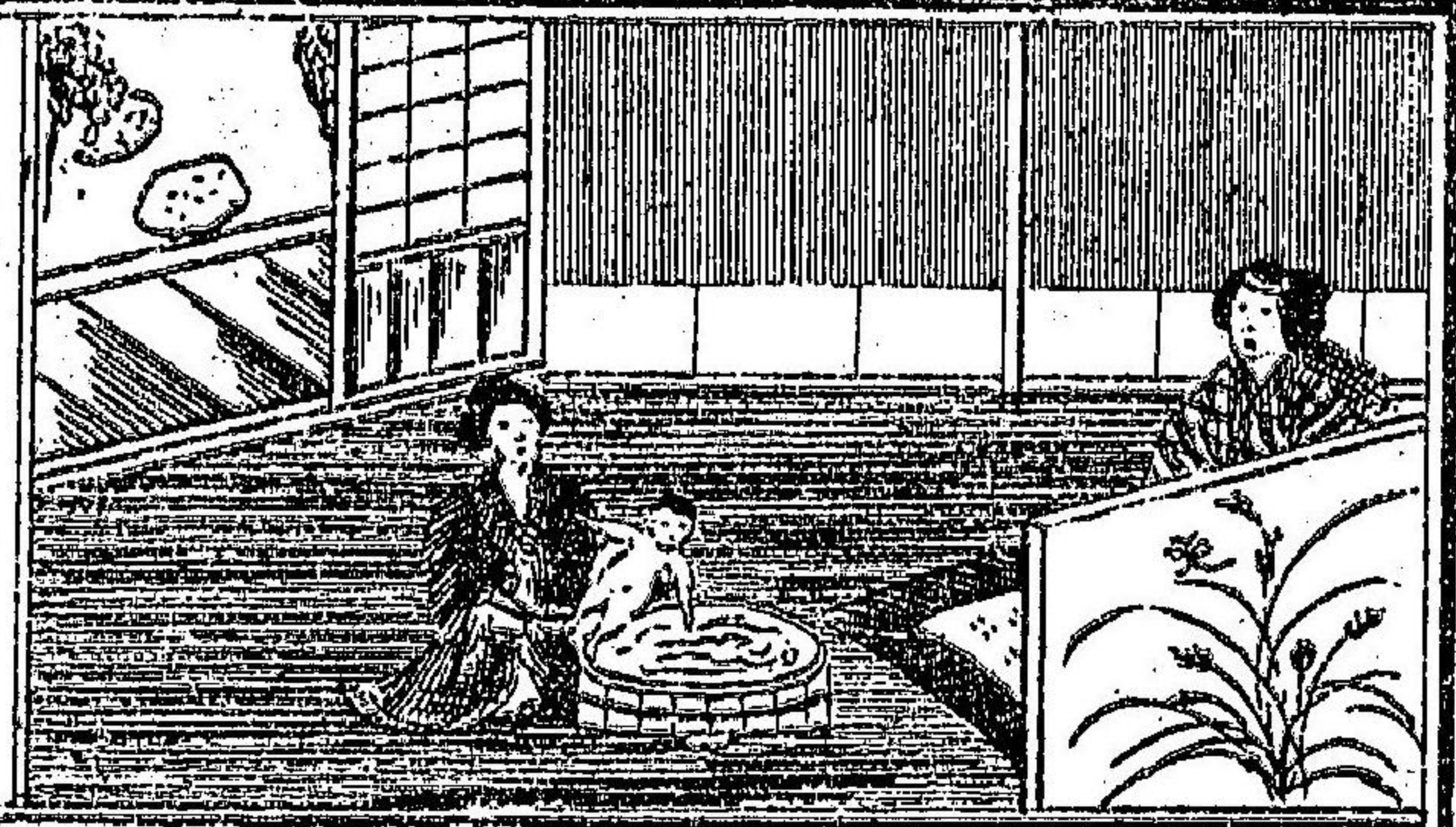
右ハ 瀛航何丸
通運會社より
着荷賣処都合
因り来る何月まで
本社倉庫中へ預
り置い処確實也
為後証預り證書
依而如件

年月日
住所
預り主氏名印
何誰殿

是仕の当由の条彼に飲
下ししは備へ

⑭ 出産を祝する書

謹啓 清内室様は儀
過の古安産古母子根花
健全と由目出度なまは



⑪ 地所賣渡証
一金何萬円也

⑮ 悔の書

古産為一純古飲之
と致進さる清笑可
新解 良古商と折角
古保書者一とまな不
清は父横儀古長病

右者某府何郡何郷何村何番地卷面幾
 萬田拙者所有之
 地所別紙圖面之
 通令般貴殿へ
 永代賣渡以處
 確實也然ル上ハ
 右地所へ付親類
 ハ勿論他ヨリ故障
 申出以者更無ク

若し異存申出以者
 有之候々賣主ハ勿
 論保証人罷出辨明
 致し貴殿へ毛頭迷
 惑相掛間敷候為後
 日賣渡證如件
 年月日
 住所
 賣主氏名印
 保証人氏名印
 何之誰殿

と云ふに
 又時夜者死者と云ふし
 中初世下等入の古然
 備へ程も家の明る古出
 棺と小糸と古糸の中
 小糸射は少法に雲
 前小古備の古糸の古糸

（其） 備玉の古糸を
 一書原と仕度能を和事
 本月中の備玉の積り小糸
 又何分用より糸ト糸
 早くも東月始なる古糸
 お備玉の古糸を古糸

十一 建築請負の證

一 建築 寺ヶ所

問口何間 與行何間

此坪數何拾何坪

但別冊仕譯書の通

請負代金何円也

内余何円手附金正請取

右者御居住家建築

別冊仕譯書と通前記

の代價にて受買ひ處確



實也殘額儀棟上

及落成二期は悉皆

御渡一可被下し御定

約通來ル何月限出来

留中宣友親上母之

味し中上秋下度い

右方報知しつとあは

少度い不盡

十一 天長言一人を招く書

天長言一人を招く書

系業詰同友を存好の乾てハ

柳泰平を願はる激志

祝宴古母きい方古建合

午及三村は古光生来下

きね度い好

十二 新築入書

皆済可仕矣萬一御檢
 査上仕譯書と聊に
 りとも相違も兼以
 へ幾回までも改修可
 致れ萬一本入違約等
 有る節ハ保証人引受
 不都合無様可仕以
 為後自受負証依而件
 年月日
 住所
 請負人氏名印

お暇時相違い家より
 生火告お立敷候し
 等入古一同古様家等
 無き古立退なされ
 不立敷古あ香古同
 古月旬

保証人 氏名印

何誰殿

① 敷金預り証

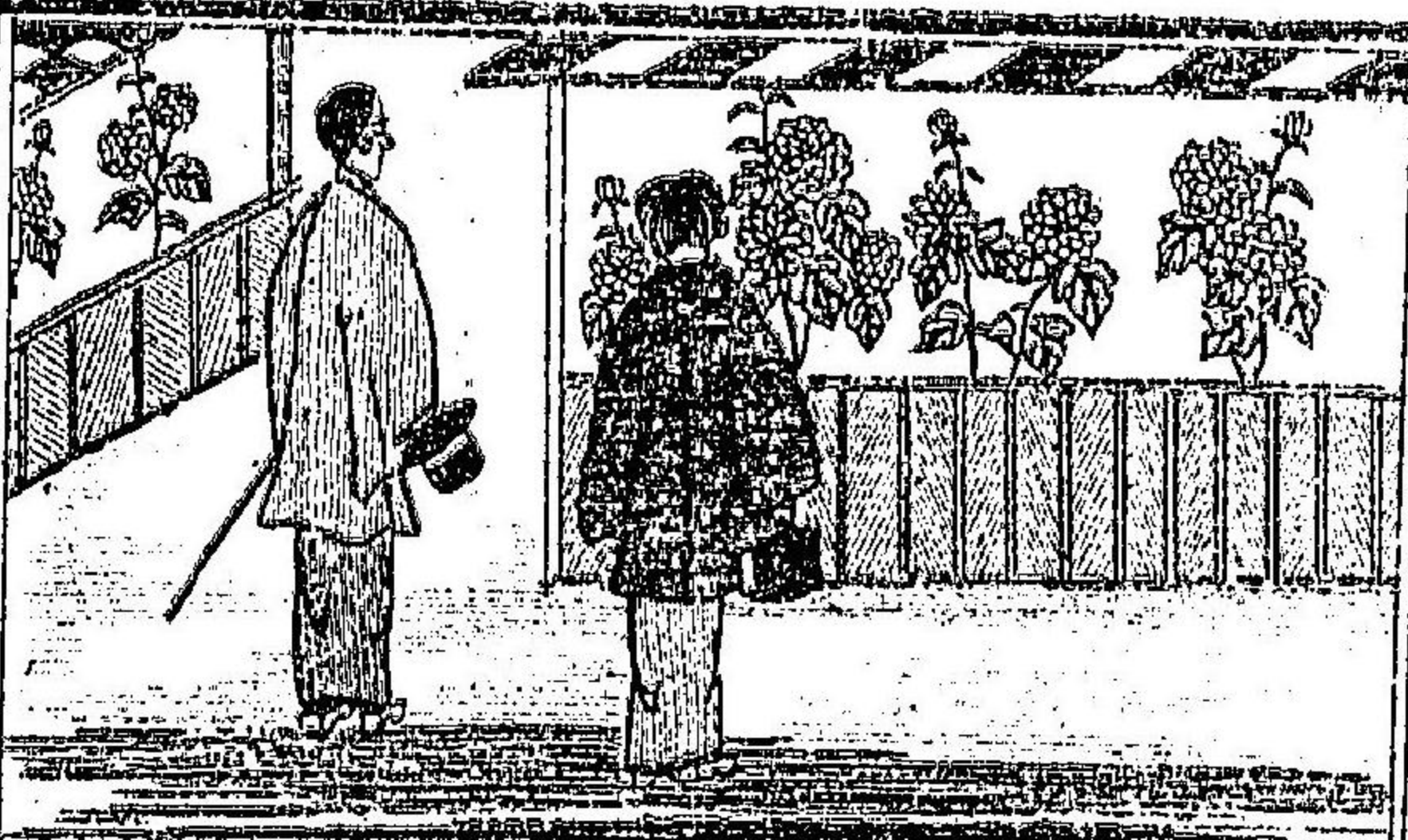
一金何円也

右者何町何番地建
 設有之矣拙者
 家作令般貴殿貸渡
 敷金として前記の金
 員正御預り申上然る上
 御移轉前何時

② 荷物送の返しを執る書

魚る古様又と徳お疾く
 小古通送申上べきの書
 職才も少く心は違致
 之が為再送致し今一
 週分程法於豫り申上

御返成可申
 家賃延滞
 敷金内にて差引精



取上り此取成
 置の料

① 菊見小譲書

某更種枯家の造
 手
 巧不出東の由

算可致委依而預り証

書如件

年月日

住所

預り主氏名印

氏名殿

④ 公債證書書入金借

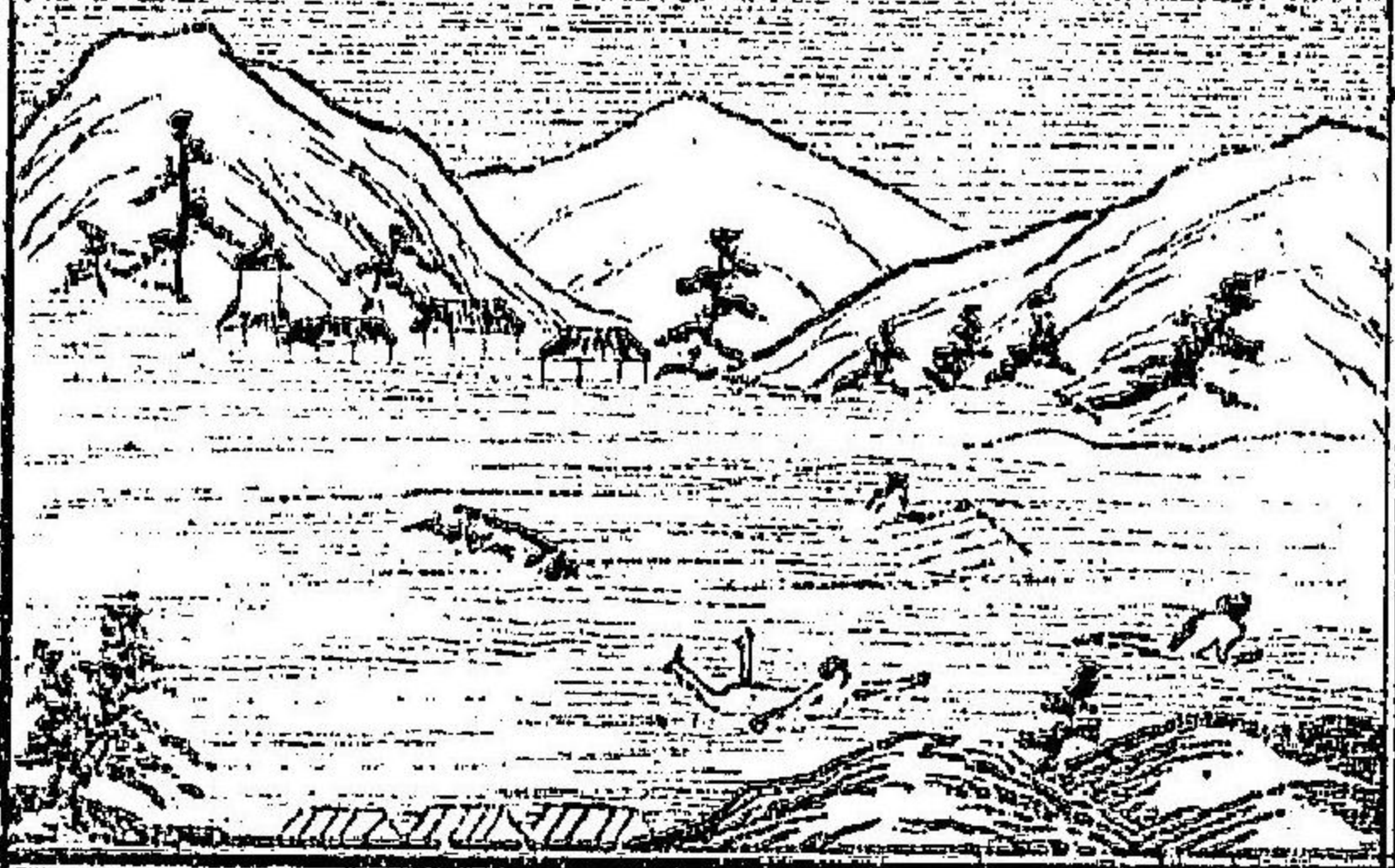
証

一金何千何百円也

但此壹月利子
 金何円何十
 銭定

歩身迄一
 幸ひの半休
 晴天
 借取度
 也

② 同返書



書而金員借用
以處確實也然ル上
者御約定ニ通り来

何因券何号何番何枚
右者拙者従来所持罷
在レ處合般貴殿
方へ抵當ニ差入ル

此抵當
金禄公積何号証
書高何因此枚數
何程
内譯

係之如く其度又の造り
何進ル係如官一々付
百見物ぬ一者おぼた
お福古語引きまされ難
古同定く付此古供仕く
依之估越されレ時百
速も凡貴館まで控
系了仕る古言古め来る已上

③ 洪水又と舞と書

過日來と書舞る目と書
此地出水已ふ人おぼ不及び
由承り書入る書中おぼ

凡何年何月何日無
 相遺元金返済可致
 且利子之儀ハ前記
 通毎月何日遅滞
 なく拂入可申ハ就
 而ハ期限内中價格低
 落ハ節ハ相當追抵
 當差入可申ハ萬一
 期限に至リ返済方相
 滞ハ別紙御渡置

以委任状を以テ貴殿
 御勝手ニ御處置相
 成以共聊申分無
 將其節ニ至リ金高
 不足を生トハ
 何程までも別途償
 却可致以依テ別紙委
 任状相添へ借用証如
 件
 年月日

子條 各所産品の取寄
 申上各所人お取入用
 毎所産品を由ては
 右不取寄取寄人
 此所産品の取寄
 世 各所産品の取寄の書

町下 各所産品お増の取寄
 家産品清茶取寄
 陳を各所大人取寄
 各所産品お増の取寄
 持寄各所の取寄
 同寄各所の取寄

住所
借用主 何某印

保証人 何某印

何某殿



⑤ 右反證

一金録公積 甲乙
丙丁号証

書高

此枚数 何枚

右者来る何年何月

何日を限り拙者方へ

貸金之抵當として

預り置候ハ付而ハ

右貸金元利返還

相成以節ハ此證書

あつくは仰せ度い大古

伺とぬ新しき産の白

⑥ 近火又々舞書

此夜に火を失火を

懸念し直心取生されぬ

市子と名をぬるの係り連

糾穴の洞一をとお古の條

無しの由先以て幸福の由

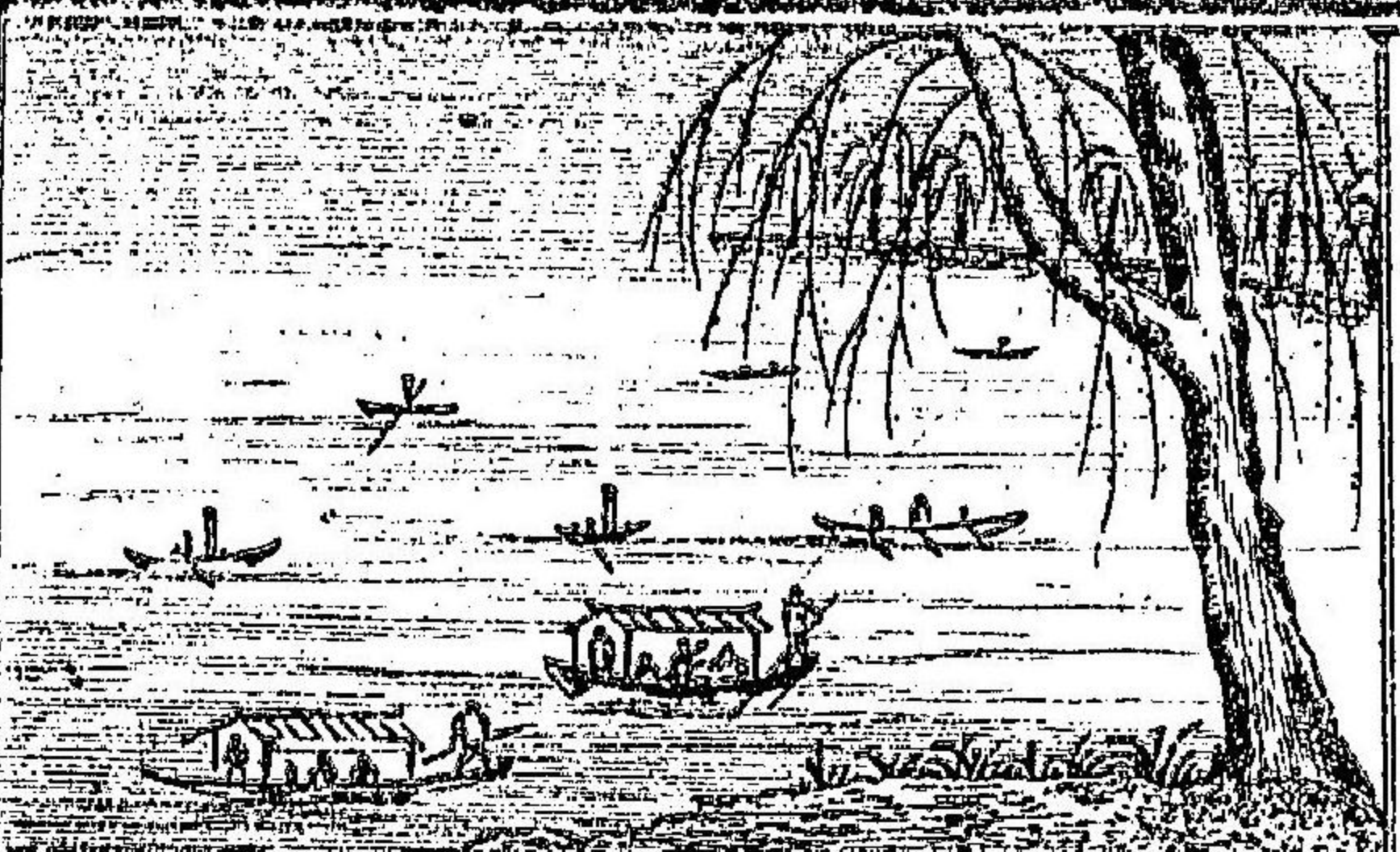
候と存存の倉庫を格

免え難く旋とよ進見

仕立相生者お意の由用

もいひ古きを由あくは仰せ

引換無違引返戻
可致依而反證如件
年月日



住所

預り主何某印

何某殿

副言期限後談金
返辨無之拙者手許
いおひて處分せられた
場合於てハ此證
書ハ無効たるべし

①六 流地所引渡證

何郡何町何番地字何々

度下可々

①其 煙火具を招く書

一書致お願ひ陳を仰白

某川より移す煙火敷箇

お揚公由小生こ宅地を

幸ふ眺望を望むは官儀

誓り合光来を納めた

①其 急病を報きしる書

お案内とせぬ以上

お辱陳を父と申儀本

月初旬より肺病を患ひて

お召柩されぬ種ご子

一田畑何町何反何
畝歩

右ハ去ル何年何月
何日抵當として何
年何月と期限を約
し金子借用委處本
月幾日満期に至り
返金相整ひ難くハ
付定約と通り地
券并く地券状とも



を病しハ世に重なる
熱ハ極覺人の保し醫者師
も病たると事にも不中ハ在
當時重なる病角不順
付親族一同致心配居
る此ハ誠ハ名次ホ一先

此病ハ来度待しハ也
廿七 華物不儀ハ書

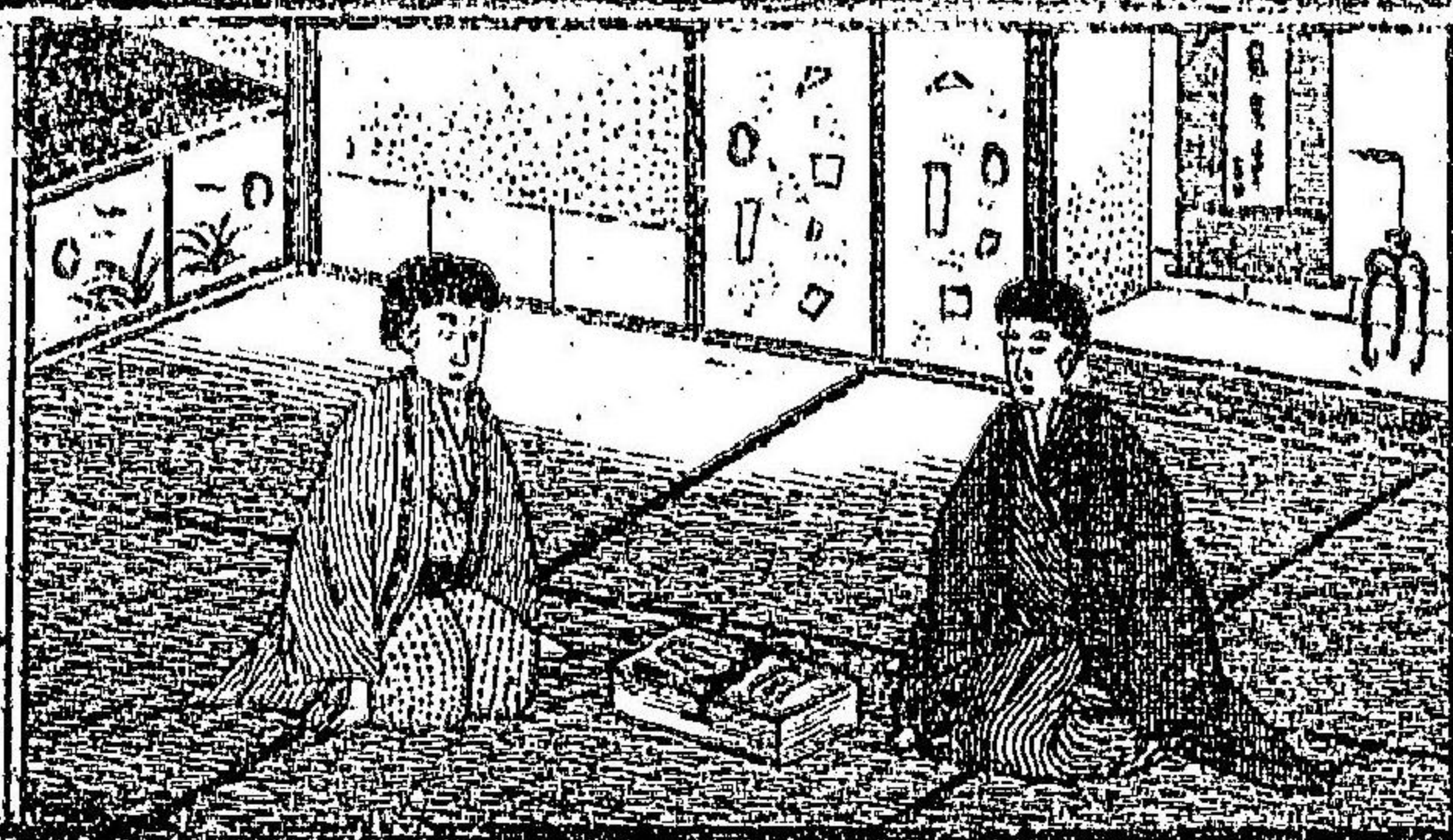
益古法道に於て
明日運動のため其山へ
華物お儀ハ書又其
業はよ同致ハ詞也

其終其許へ相渡
 處相違無之然る上
 ハ此地所之付永世
 に至る迄聊申分無
 之矣奈貴殿より御
 願立之公名儀御書
 換御所持可被成依
 而流質引渡之證如
 件
 年月日

如何
 此同
 報
 共
 牙
 草
 下
 依
 是
 中
 一

海寶鑿何某印
 保証人何某印
 何某殿
 一何品
 右之品物令般金何
 同之賣渡即也代
 金受取候處確實也
 萬一此品付後日如
 何様之儀出来共

下
 依
 是
 中
 一



出所憶ふる品は付
拙者出頭此度辨明

仕毛頭御迷惑相掛
申間敷矣為後念依
而如件

年月日
換藉

氏名印

何れ誰殿

① 荷物為替証

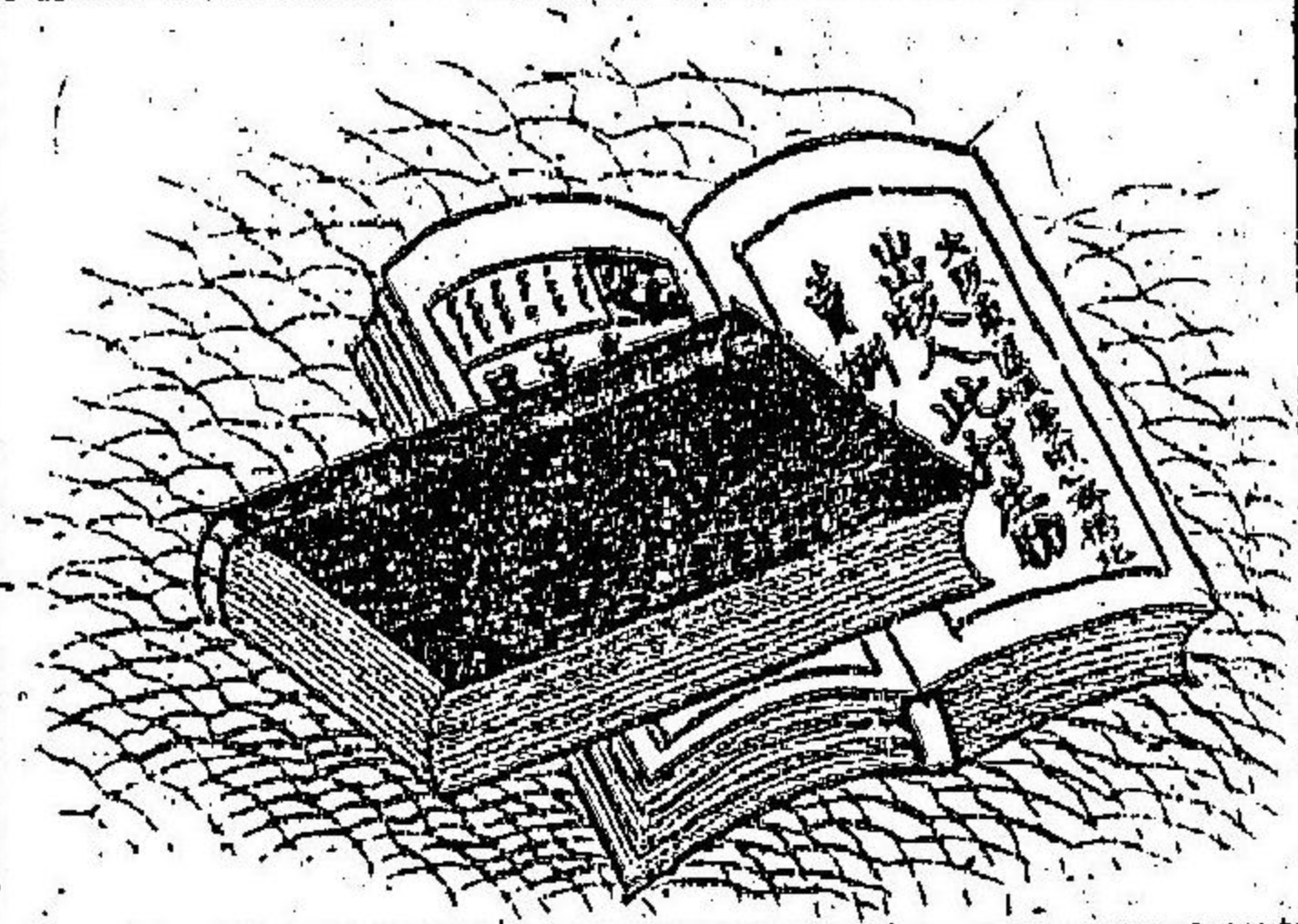
一何品 何個

此代價金何萬兩之

昨夜御電致し留吉申す
 毎々古為り下々名を謝
 乾るる御電致すに
 一盞多々度何卒
 夕氣よる古貴陰草度
 右夜安楽因事如使以上

② 花のよき
 一を断る

謹啓 某所之櫻花
 今満并之由にて誘
 在物里亦く幸謝
 に生憎甘菜地の観
 芳約あり



右ノ物品拙者可受
取等ノ処都合ニ依
リ為換取組矣間何
府何郡何町何番地
縣何區何村何番地

何某方へ御遊送有
ニ度也

年月日

住所

氏名印

何某殿

①預り子養育ニ證

貴殿子息何誰殿當

何月何日御出生

處乳御不足ニ付拙

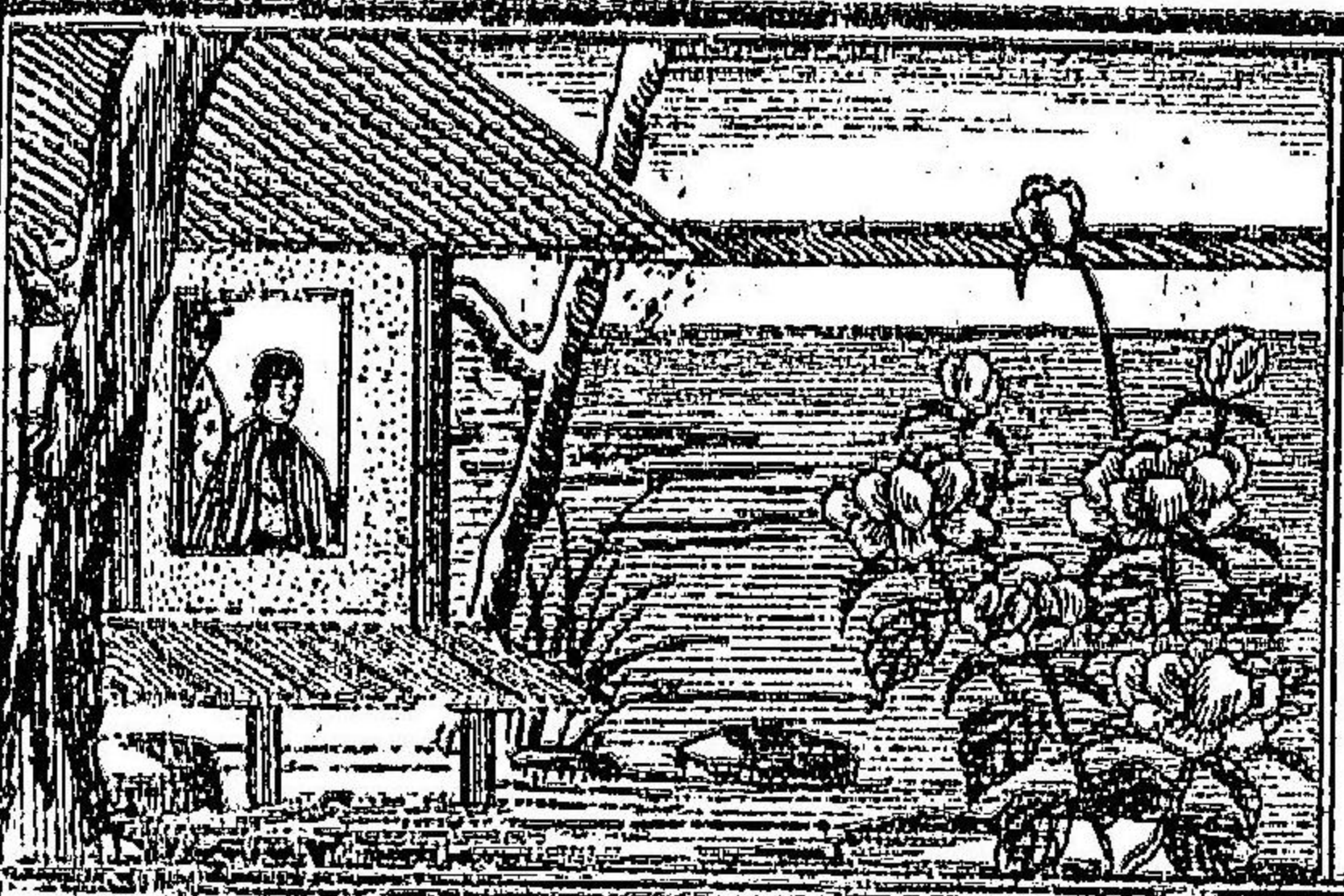
① 又ハ五箇中ニ於テ不
思古學家ノ下ニ於テ
未レ物ニ故者

② 書籍を借る書

是法勉強ニ長養服
仕下陳ニ近頃新版ノ作

文章法買上ニ由卒尔
ニ至ルハ其音等々分
取入用世ニハト報付相
惜仕度直リ連絡ニ下ル
上此者ハ直附興ニ下交
致下不備

者妻誰へ乳扶助と
して毎月何程も相
定め尤も衣服等ハ



相贈られ矣御約定
さて我等方へ御預
り申矣處実正也然
る上ハ病氣其他遣
る相生卜節ハ速
御報知可致若養育
方不行届有と矣乎
妻疾病又ハ乳少く
相成ハハ何時も
ても御引取可被成

⑤ 人を招きて牡丹を賞する事

書おはせ仕ハ然り年
極射ハ白牡丹地味も適
いとは意おはる成一有
三日あよ里 笑初免ハ吉
閑暇ハ在つて遊遊鏡ハ

ぐ直出江下度信待中

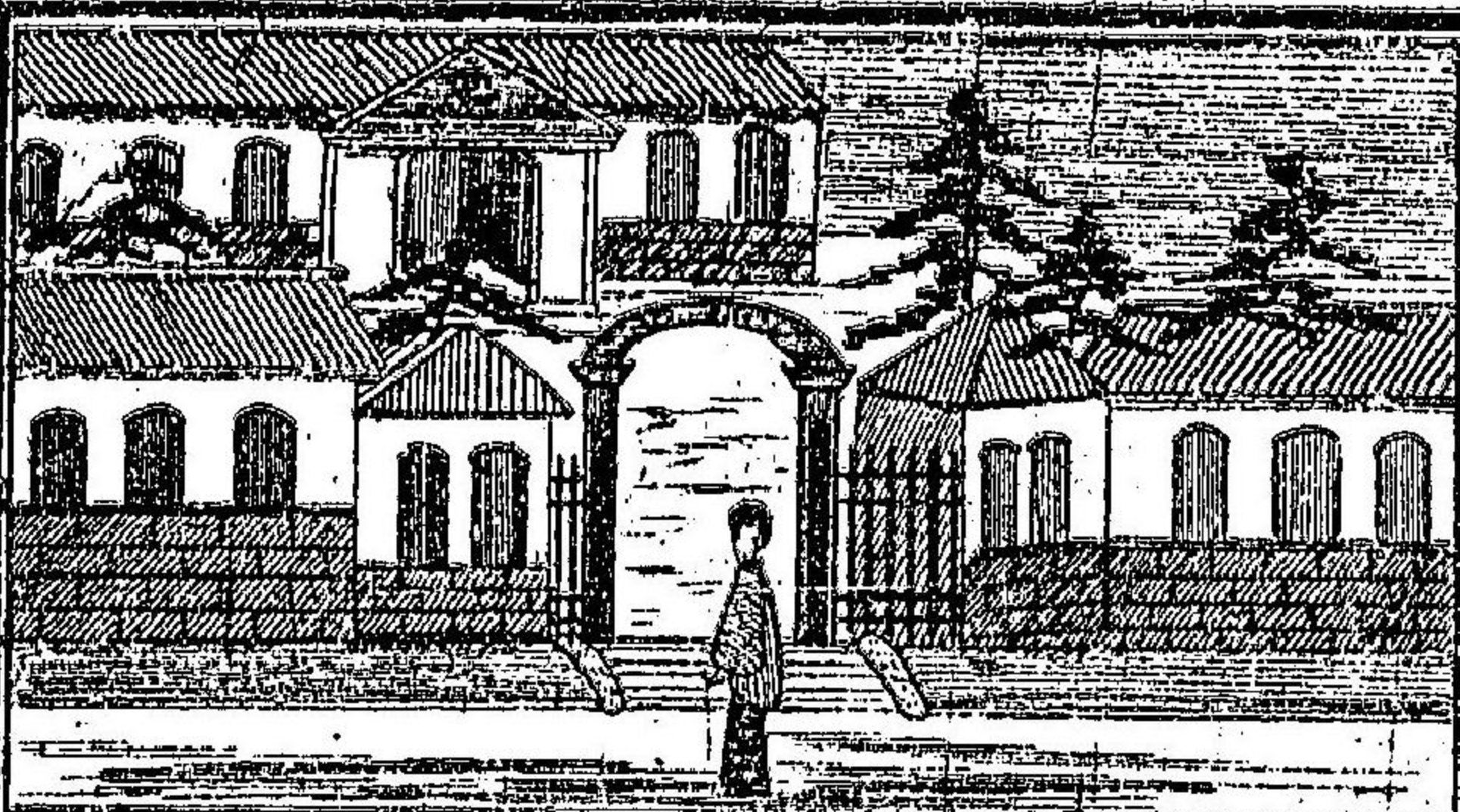
ハハ以上

⑤ 繪畫共進人會
一後引来る也

喜慶ハ何名ハ流流多祥
自由車賀ハ能キ為て公
布お成居繪畫共進

候為後証依而如件

年月日



住所

預り人氏名印

右妻

名印

何某殿

① 証書引當と證

一金何円也

但利子
一月何程

右に金員別紙何誰

へ貸金何千円と証

書御預申来ル何年

會吉日何より開會

お米本年にも出品も多

く殊ふ徳家糖をお

美しく進歩願ふよ

身百造一覽と古修致

度おの古者合古君中

上の不気

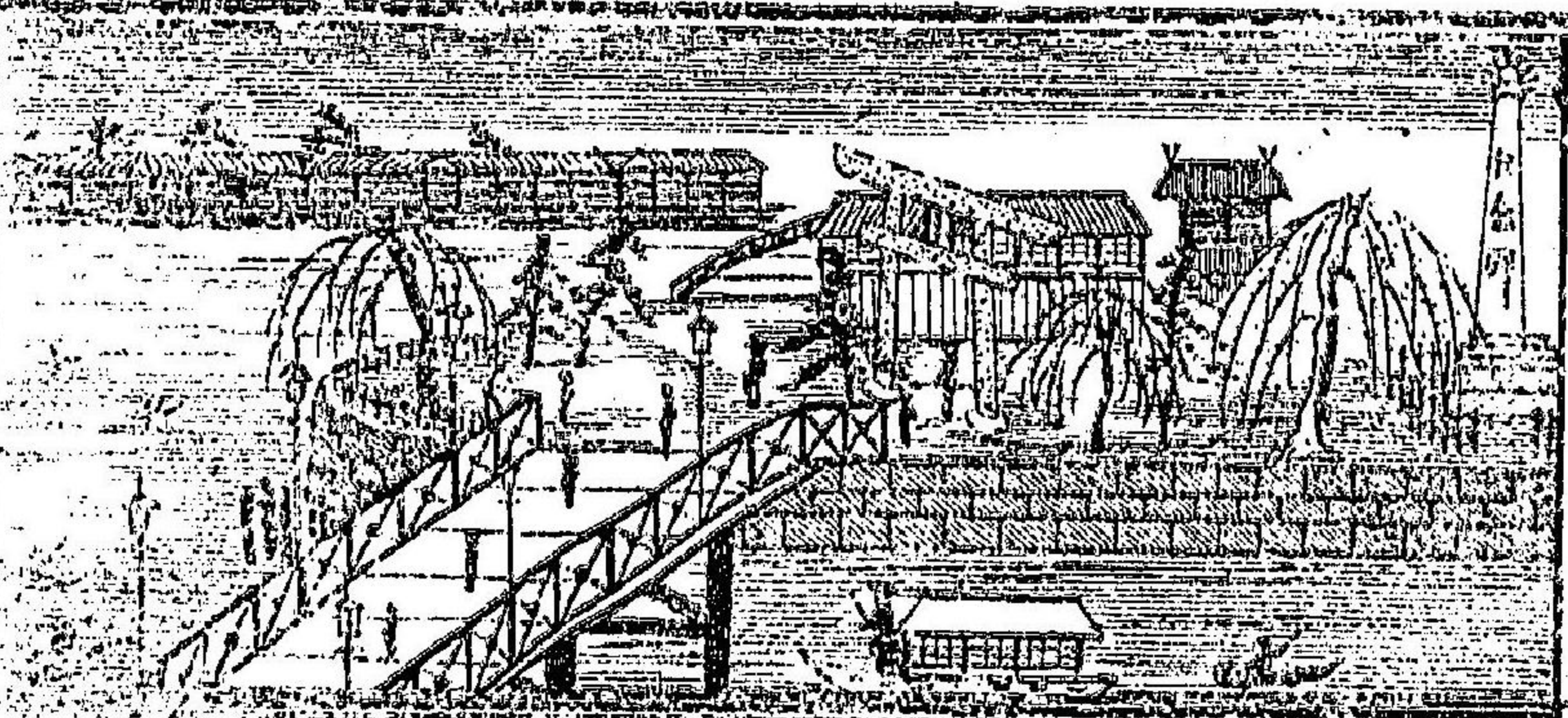
② 書に籍を注文したるを

益は清造杯賀と云

の陳を一冊の新抄紙

ふ小掲載五と貴店

古書及名の有益日用文



水産のよ付は口面例を

部を急治るるは下夜

印代金郵便を撰

よまへる上は也

納涼は誘ふ書

前田畠吉宛に法下能

何月何日迄借用い
處実正也萬一期限

に至り返済方不行

届矣節ハ保証人引

受辨償致し乎又ハ

別紙貸金貴殿より

直ちに御取立御入

手可被成は因て談

借主何某に添書と

も御預申置は為後

行も時々暑氣堪へ

程くは依ての甘某の川

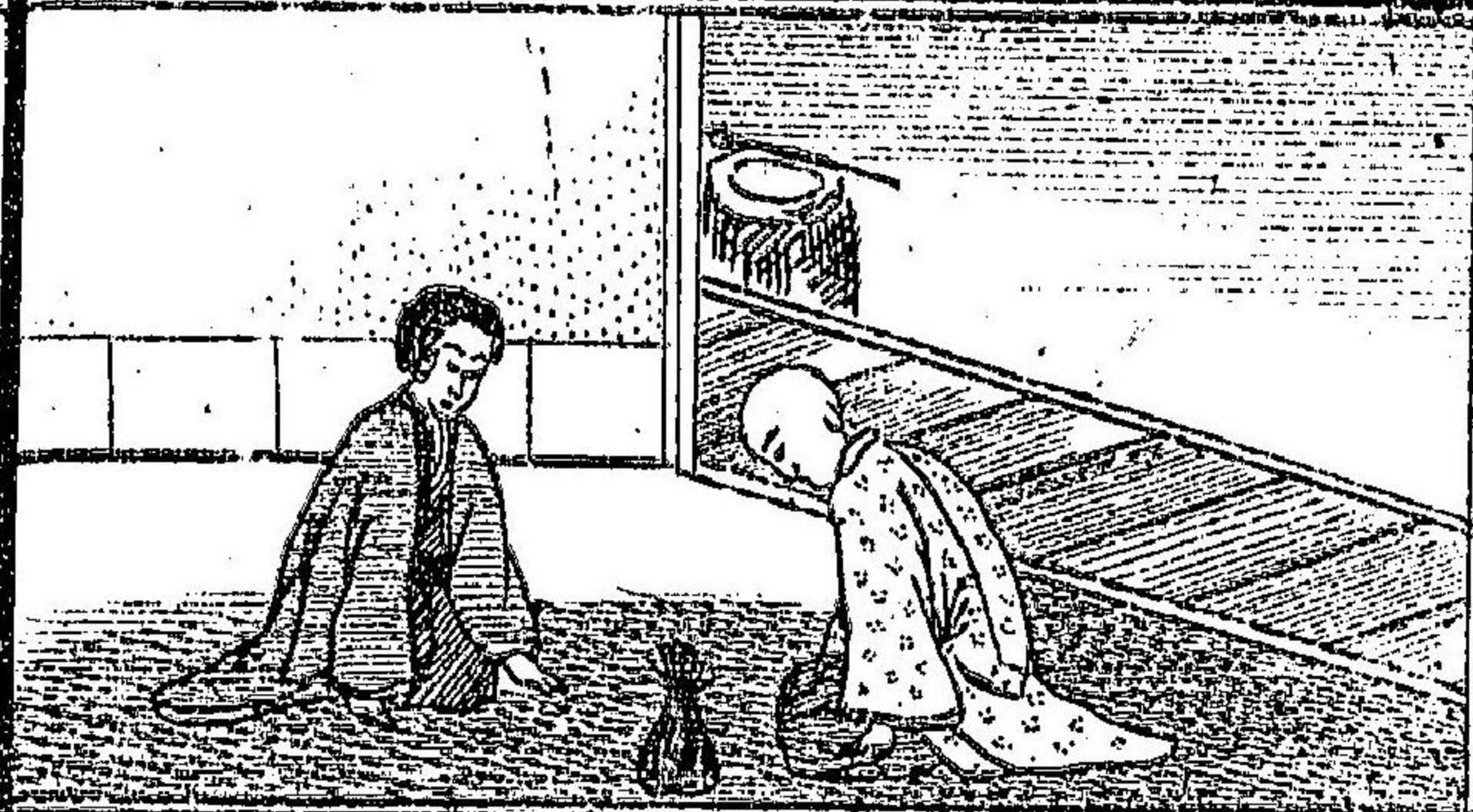
舟を浮べ終る涼み

度存の貴所はまぬ何

ふん式若くは同きよん

たまはねを拙家と

日証書如件
年月日



住所

借用人何某印

同

保証人何某印

何某殿

諸願之部

① 入校願

住所

族藉氏名

氏名

右令般御校へ入學

此等事と交わす

③ 殘暑見舞いの書

一輪の月と致しぬ

猶此等事を借しぬ

中も程堪難く申す

古原世とぬ

よの味も友人より

付直下仕の時

以自心不祈

④ 月見不友を招く

今夕も陰曆中秋

三五ふり拾も好く



晴るはりの物も久まて某
 氏未を招き歌合を催
 度小宮古案剛未のつ何
 可成より古束社下され
 度左解を相親不讓
 里山早のふ備

為致度御許容之上

ハ御校則儀ハ國

く為相守可申此

段願上以也

年月日

右段 氏名印

何學校御中

②種痘願

住所

族籍誰幾男

氏名 何年何ヶ月

③ 長壽を祝する書

益古壯逸を賀良陳

為父還曆古祝として

古重し由古贈以下示く

お納仕の尚子親系氣

甘雁を古賀良解名書



右之者種痘願上レ也

奉賀儀より原とよま望之
 以古笑納一の比下の禮云

○美 佛子ふ人を招く也

あ暇古免て比下の陳を
 来れ筆る之父十三回忌
 佛子執り比付比出効

年月日

右殿 氏名印

氏名殿

○三 送藉願

住所 族藉

氏名

右ハ今般某府何郡
 何村何番地へ轉住
 致一矣く付送藉願
 上矣也

學午あ九村古系諸比下
 友ハ古古安末内まで如比
 以産氏比之

○早 出を人報

一草中上の統も後子不
 増と後多て比度暇



年月日
右
氏名印
某區長氏名殿

④ 出産加籍願

住所
族籍誰幾男
氏名
右者本月何日出
産仕矣付御加籍
願上矣也

年月日

右父
氏名印

某區長氏名殿

⑤ 營業鑑札御下渡願

遠い乾を以て同人
より何事か故中出たも
決して法探用は下
あふ法殿の念中上
在州

⑥ 雪見ふ友を誘ふ書

昨夜来と降雪を
年終なるるる急報
世界のみ愛ドの通るは
中上は素所と子社去
里見おぬ雪と素一入は
同氏より招き願り



是兒思^{おも}たけり^{けり}古^{ふる}同^{どう}傳^{でん}
仕^し度^どの^の如^{ごと}く^に返^{かへ}り^て結^{むす}合^あ

④ 同返書

折^お復^{ふく}信^{あせ}の^の如^{ごと}く^に大^{おほ}

雪^{ゆき}近^{ちか}年^{ねん}守^{まも}り^の乾^かる^る其^{その}

氏^{うぢ}の^の子^この^の部^べへ^へ古^{ふる}傳^{でん}下^{くだ}

され^され^れ和^わ友^{ゆう}の^の是^{こゝ}に^に在^あり^ます

新^{あらた}交^{まじ}り^の旨^{あじ}後^ご刻^{こく}を^を飯^い飯^{はん}菜^{さい}

果^{くだ}の^の仕^し度^どを^をお^おも^もい^いす

⑤ 死^し去^{しよ}を^を知^しる^る書^{しよ}

手^て紙^しを^を以^もつ^つて^て中^{ちゆう}上^{じやう}片^ぺ紙^し祖^そ母^ぼ

疾^{あや}病^{びやう}氣^きを^を憂^{うれ}ひ^ひま^ます

私儀今般何々々高

業仕度尤御規則々

趣堅く相守可申

間御鑑札御下渡被

下度奉願矣也

年月日

住所

族藉

氏名印

某府知事 氏名殿

⑥ 結婚入藉願

住所
族籍誰幾女

名

何年何月

右ハ今般私妻子娶

リ以依之送籍相添

へ御届仕以間以加

籍奉願以也

年月日

住所

族籍

氏名印

某郡長氏名殿

生叶方辰之午未の三時

辰死立葬式之儀を以

白午辰三時辰出柩

此由以知せまて

四 歳暮之書

一節相呈仕在る所本

七 養子送籍願

住所

族籍誰幾男

氏名

何年何月生

右誰儀何府何郡何

村何番地族籍何

誰へ養子と差遣

其間送籍願上以也

年月日

住所

族籍

父氏名印

年暮に於て竹角由多
忙古事終了春柑を寄上
輕少年末之古祝儀と
して致道並に古賀大目
下以折角由多連年之御
答之儀奉書候事

某郡長氏名殿

諸届之部

八 寄留御届

（甲）縣丞補了りて乙縣往
居るに本籍を以て申す
ハ此寄留ト云フ
原籍住所
炭藉



氏名

何年何月

妻名

何年何月

長男名

何年何月

右私儀令般何村何

番地へ寄届致し矣

之に依て寄届証相添

へ此段内届申上は也

年月日

右

氏名印

某郡長氏名殿

を仍しに謹言

（墨）寒中見舞の書

お啓本年もあつて款

幸強くは又益々清様

煥吉に挨拶お賀と申す

随ふも少鶏卵甚々

お申す古何と致し上りて

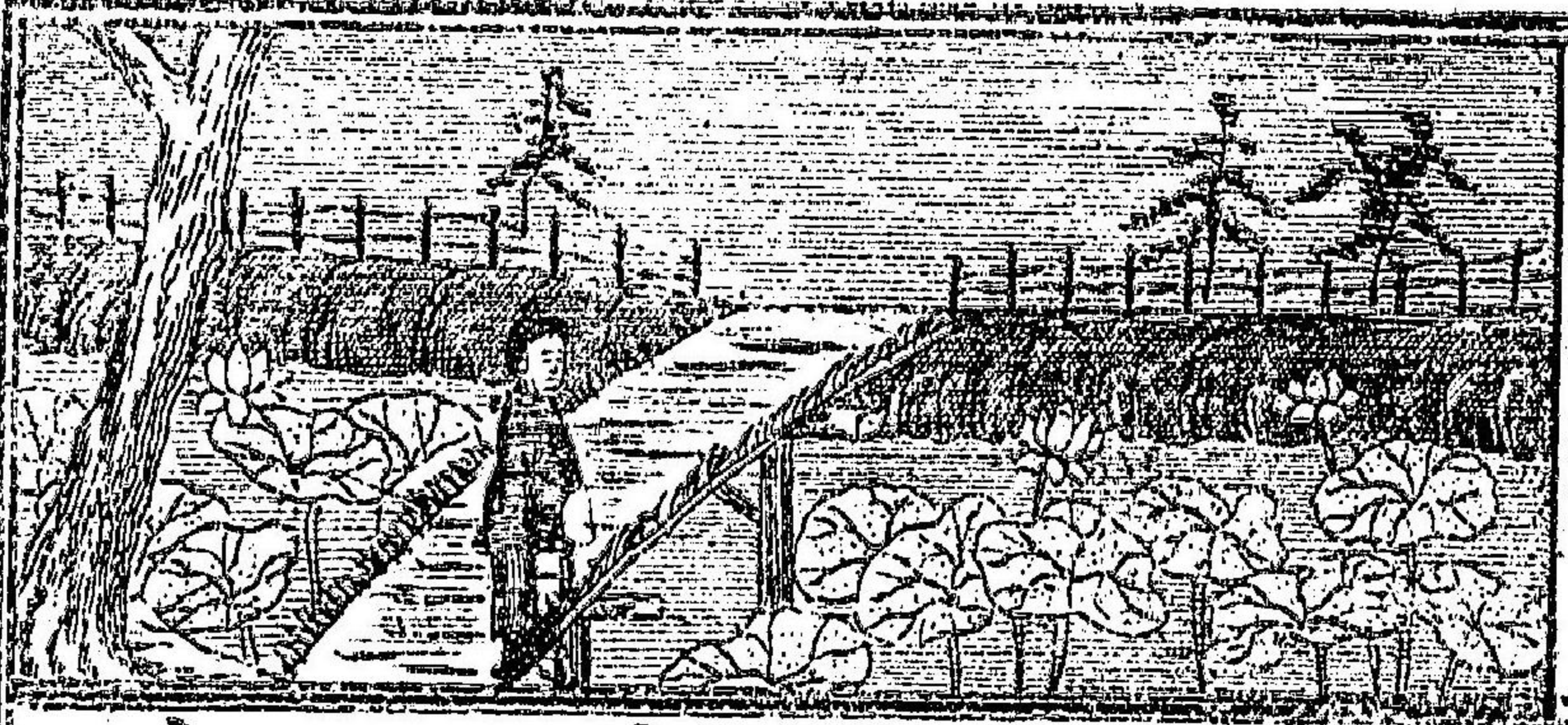
至仕はは笑留ては下は

（墨）誰文品僅促の書

お暇先日以依頼の書

誰文品如何と承下は

今よお荷は仕て成甘



尚感仕の意一未出
 脊はお成不中い
 速市名出江戸度
 古古僅促も及ひ也

四

おす
 福喜賀の陳

福喜賀の陳

九

婢僕雇入御届

原籍住所

族籍名幾男

氏名

何年何月

右之者當何年何月
 より雇入は間此段

御届申上以此

年月日

住所

族籍

氏名印

某警察署御中

十

轉居御届

過百古納束致し其

池の子蓮花時々満井

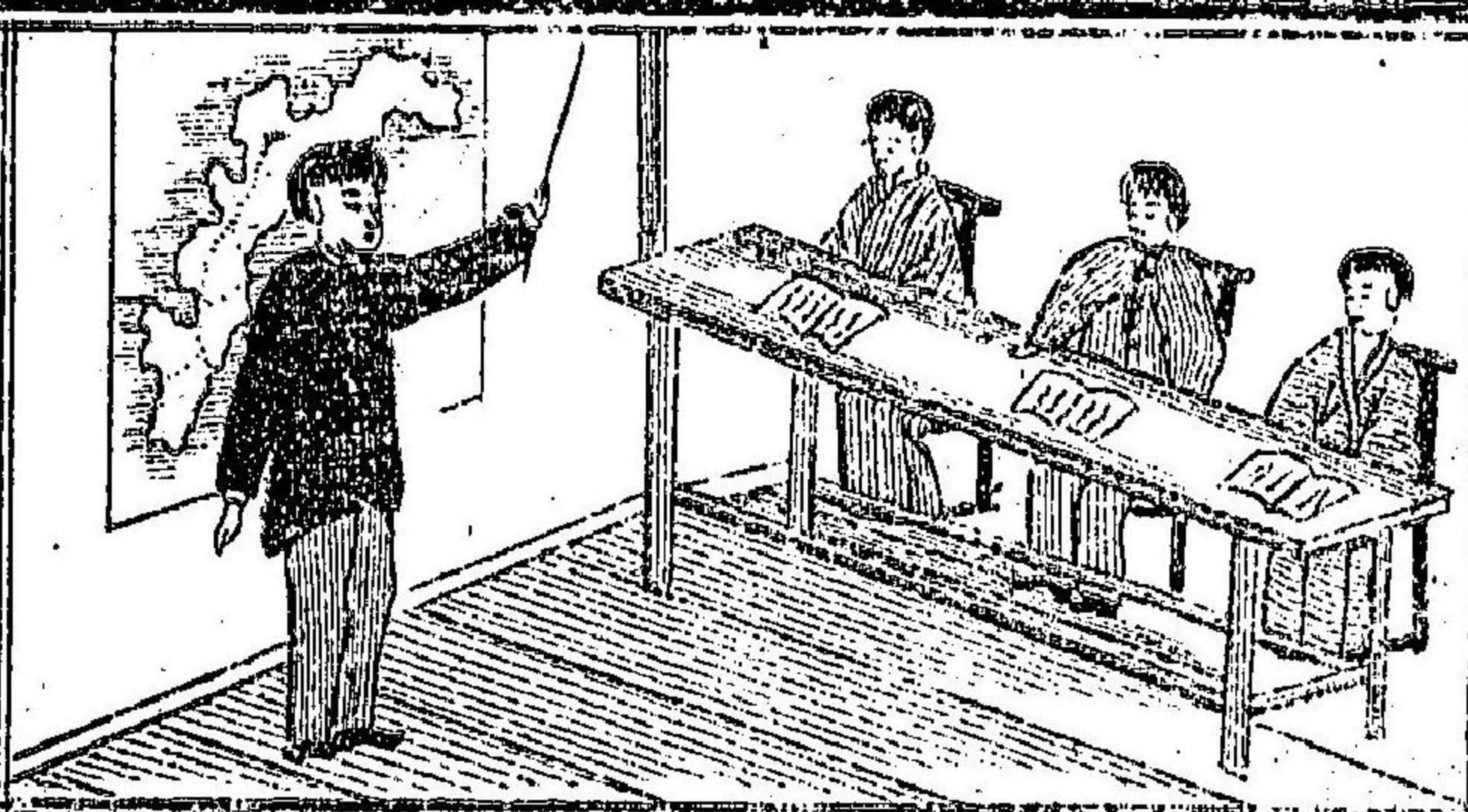
由にりいの白子影

古儀仕度古者合個

古道より侍上り

四

相学を借す書



住所
何人
氏名
何人

蒼古壯健をせられ奉
 賀の陳を追々復たふお
 集の旨の宛より復た子
 お始度既ふ合望し者
 當三案中合望の貴人足
 以爲支無遺産の如河

右ハ今般當區何村
 何番地へ轉居致し矣

間戸藉面御記替被
 下度此段御届申上
 矣也

年月日

右
 氏名

某區長氏名殿

(借地権家者差
 押入ノ加印ヲ要ス)

電信文例

直返り付入の如そ

（印）教育會儀傍聴の儀を奉

お辱は是勉勵を望む
 此の如りより某校に於
 て教育會の再設を以由
 一たび傍聴致し度

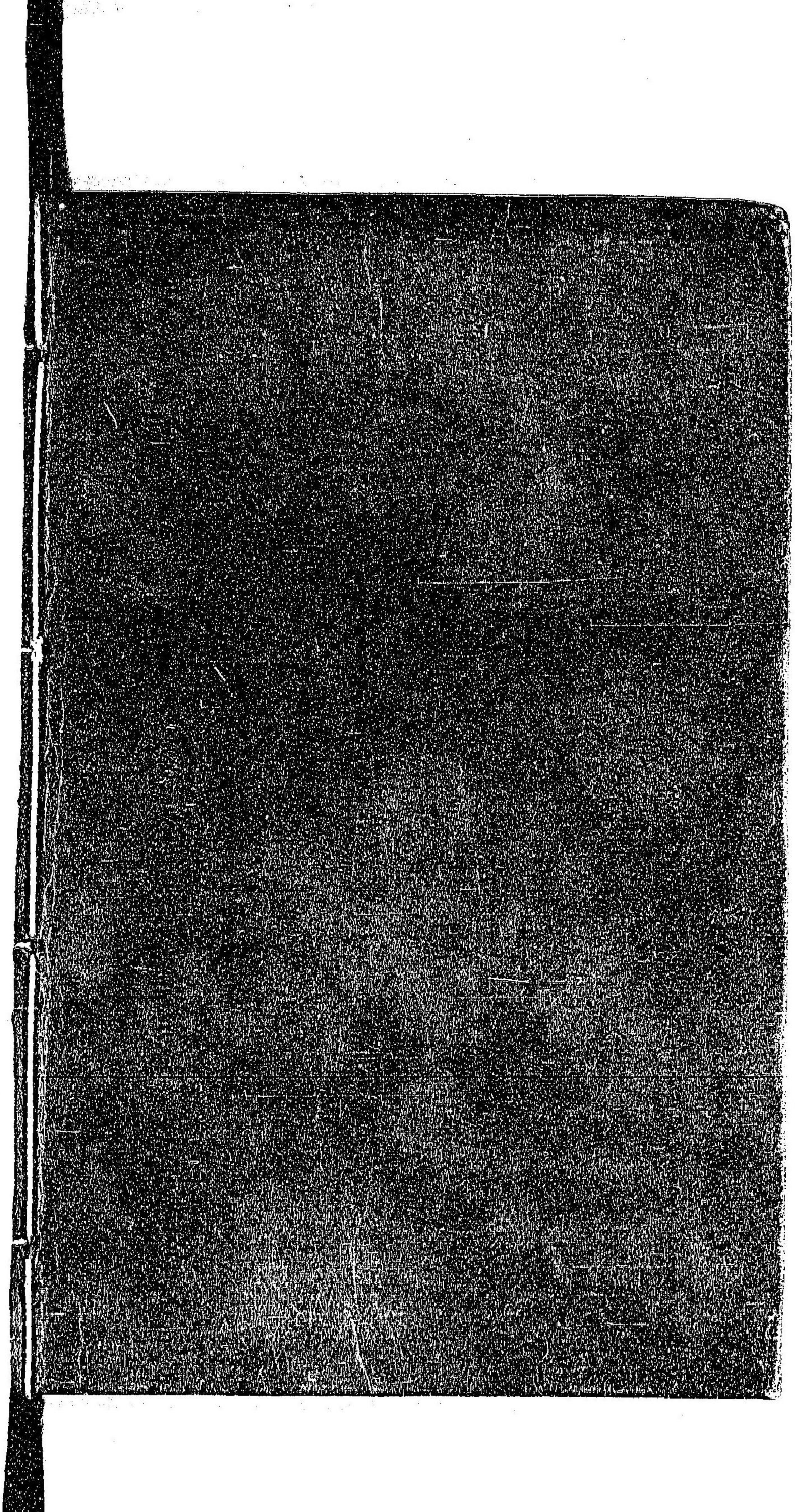
思五如何
此同
度度

- ① 為替金ヲ取組ニ交
金 十 円 其地某店へ
カネセシメテ。ソノ子ソレタ
ナヘ。オウル。スクウケトレ
ナヘ。相違無事。早送即取組
ナヘ。オウル。スクウケトレ
- ② 同 返信
為替金千円 某店ヨリ
カハセシメテ。ソレタ子ヨリ
正ニ 請取申候
クシカニ。ウケトル。
- ③ 歸宅ヲ報スル文
用 事 相済ニ 明日帰途
ヨウキ。スミ。アスカ
ヘル。
- ④ 死去ヲ報スル文
神氏事 今朝 死去致矣
タレコト。ケサ。シキヨ。
誰氏ヘモ 御通被下
タレニモ。ツダゴヨ

明治廿三年三月十日 印刷
同 年三月十三日 出版金八匁

版権所有

著作兼發行者 前田 席吉
印刷者 齋藤 萬治郎
大阪市西區新町南通二丁目百七番屋敷
大阪市東區南久太郎町二丁目四十七番屋敷
大阪市南區心齋橋通順慶町北五入
專賣者 此村 庄助



新編
類文

有益日用文

全

特59

371

079691-000-8

特59-371

有益日用文

前田 耕石 / 編

M23.3

DAC-3769

